

# 「3D CT 画像を使用した慢性硬膜下血腫穿頭手術における術前計画」 に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：(2019年12月19日)～2023年3月31日

## 〔研究課題〕

3D CT 画像を使用した慢性硬膜下血腫穿頭手術における術前計画の精度と安全性の向上

## 〔研究目的と意義〕

慢性硬膜下血腫という病気の手術による治療は、頭部 CT 検査から血腫の場所を確認し、その部分の頭蓋骨に小さな穴を開ける(穿頭と呼ばれます)ことにより行われます。穿頭をどこに行うかは、従来は CT 画像をもとに頭蓋骨上の基準となる部分(耳の穴や鼻の付け根)からの距離に基づいて計画されてきました。最近、通常の頭部 CT 画像をもとに、頭蓋骨の 3D 画像が容易に作成できるようになっています。本研究では、慢性硬膜下血腫の手術の術前計画の際に CT 画像から頭蓋骨の 3D 画像を作成し、それを利用して術前計画を行うことでより安全に正確に手術を行えるかを調べるというものです。

## 〔対象・研究方法〕

本研究の対象は、帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科において、慢性硬膜下血腫の治療のために穿頭血腫ドレナージ術を受ける 20 歳以上の患者さんです。2019 年 11 月 30 日以前にすでに手術を受けた患者さんと、今後手術を受ける患者さんの両方を対象とします。この説明文書は過去の患者さんについての情報公開文書です。今後手術を受ける患者さんについては、説明文書を用いての説明のうえで同意をいただいたうえで研究に参加いただきます。通常診療として行われる頭部単純 CT 検査の画像データから 3D 頭蓋骨画像を作成させていただきます。また診療録(電子カルテ)に記載されている診療情報(臨床症状、検査データや画像所見など)から調査項目に関係する情報を調べさせていただきます。それらの相関性などを統計学の手法を用いて計算し、頭蓋骨の 3D 画像を使用することが役に立つか、無駄か、もしくは有害かを解析します。

## 〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科

## 〔個人情報の取り扱い〕

研究に使用する診療情報は、匿名化の後に、帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科内にある研究用パーソナルコンピューター(以後、PC と略します)内で保管されます。この研究用 PC はパスワード管理され、メンテナンス等で必要な際以外はネットワークに接続されておらず、また、コンピューターウイルス対策等が講じられています。なお、将来、本研究が学外機関等との共同研究に発展した際には、倫理委員会の承認の後にデータを共同研究機関に提供させていただく可能性があります。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科・教授・保谷 克巳

研究分担者： 同・教授・稲生 靖

同・准教授・宮本 伸哉

同・助教・西堂 創

同・助手・南部 翔平

同・後期研修医・松本 英樹

所属： 帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科

住所： TEL: 0436-62-1211